



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.14 No.2198



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度RI会長
ウィルフリッド・J・ウィルキンソン



士別中学校 武田吉夫 画

- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／本山 忠之
- 副会長／三野 博司
- 幹事／千葉 繁夫

今日のプログラム

第2278回例会 2007年11月5日(月)〈普通例会〉

■10月29日の記録■ 〈普通例会〉

- 司 会 志村孝幸会場監督
- 斉 唱 我等の生業
- 本日の出席 出席率81.97% 会員61名中、出席者50名
- 本日の欠席 足利光治、阿達 勇、犬伏彰吾、武田吉夫、南部哲男、野 英俊、藤吉敏博、吉川紀雄、渡辺正一、鍋島 秀、三野博司
- メイクアップ
- ビジター
- ゲスト
- ニコニコBOX 福澤丹治会員 パークゴルフ最終例会優勝
西條輝光会員 金婚祝

累計 188,000円

例 会 予 定

■11月の予定……………(ロータリー財団月間)

- 11月5日(月)／普通例会・理事会
- 11月12日(月)／普通例会
- 11月19日(月)／普通例会
- 11月26日(月)／夜間例会

■12月の予定……………(家族月間)

- 12月3日(月)／普通例会・年次総会・理事会
- 12月10日(月)／ファミリーパーティ
- 12月19日(月)／普通例会
- 12月24日(月)／休会(振替休日:天皇誕生日)
- 12月31日(月)／特別休会

■会務報告……………本山忠之会長

●先週の25日にパスト会長会が開催されました。オプザーバーを含め、20名ほどの参加を頂きました。会議の結果につきましては西條パスト会長より後日報告があるかと思いますが、今年度RC会長の私としましては大変心強いありがたい会議であったと報告させていただきます。その後の懇親会もパスト会長の皆様と楽しく懇談させていただきましたし、参加されました会員全員がRCに愛情をもって接していることが感じられ大変有意義なパスト会長会でした。そのまま帰れば心地よいお酒でありましたが、調子に乗るのが私の駄目なところでありまして次の店ではかなり飲みすぎまして、次の日の朝は居間のソファで目を覚ます有り様でした。

10月も終り、ゴルフを含め外で運動する機会が少なくなると同時にお酒を飲む機会が前にもまして増えてくるのが私の毎年の傾向なので先の反省を活かして自重しなければと思っています。

話は変わりますが、旧土別信用金庫の若い職員の何人かと話す機会がありましたが、融資関係の書類も含め多くは旧名寄信用金庫のマニュアルが採用されているとの事です。新しい環境の中で覚えなければならぬ事ばかりで大変だと話しておりましたが、前途に希望も持てるようで明るく話していたのが印象的でした。

二年連続でプロ野球日本シリーズが日本ハムと中日で争われることになりました。明るい話題が少ない北海道ですが、是非とも連覇を達成し、道民を元気付けて欲しいと願っています。

■幹事報告……………千葉繁夫幹事

●第2500地区ガバナー事務所より、ロサンゼルス国際R I 年次大会とアメリカ西海岸周遊9日間の案内が届いております。大会期間は平成20年6月15日～18日までで、募集人員は30名、6月14日に日本を出発、帰国は6月22日の9日間ロータリーを楽しみアメリカを楽しむスケジュールとなっています。第1次募集締切り平成19年11月30日(金)、第2次募集締切り平成20年3月20日(土)登録されます会員は、幹事まで連絡願います。

■卓 話……………社会奉仕委員会/川原一夫委員長

◆社会奉仕について

●本年度社会奉仕委員長を、お引き受けしております

ので社会奉仕委員会の事業についてお話をさせてもらいます。

本年度社会奉仕委員会の活動は、地域社会奉仕活動への参加協力等、活動計画書にありますようにほとんど例年どおりで御座いますが、今年度の地区のテーマは自然環境にロータリーを活かそうです。自然環境保護及び環境保全奉仕活動への参加等を掲げました。

地区協議会で、私の出席した第六分科会では自然保護と環境保全の意見が多く出されました。特に植樹の必要性について多くの意見が出ておりました。地区に社会奉仕委員として出ていますので、委員会と致しましては、予算が許される範囲であれば是非とも会員の皆さんと植樹が出来ないか、植樹と環境保全のことについて調べてみましたので、そのことについて話をさせてもらいます。

私たち1人が1年間に呼吸して出す二酸化炭素の量は80キログラム、これを木に吸収させるにはトドマツ50年生19本必要になります。1人の生活による二酸化炭素排出量は3.56炭素トン、830本のトドマツ(面積1.2ha)が必要です。2,000CCの乗用車で年に18,000km使いますと約5.4炭素トンですから約1,280本の木が必要になります。現在自動車や機械等のカタログには必ず環境仕様がでております。二酸化炭素排出量、窒素酸化物排出量、非メタン炭化水素排出量、鉛、水銀、カドニウム等の使用量も書かれておりますので、皆さんがお使いの車はどのくらいの排出量があるのか、カタログ等をごらん戴きたいと思います。

現在の私たちの生活環境を考えますと膨大な森林が必要になってきます。もちろん地球の温暖化の原因は二酸化炭素の他に、メタン、フロン、一酸化二窒素等もありますが全体の90%は二酸化炭素です。

木は光合成により大気中の二酸化炭素を吸収し炭素を貯蔵し成長しますから、二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫としての重要な働きをしています。

木の中に炭素として固定されますから家具や、木造住宅としても貯蔵されます。それらが貯蔵庫と成りますので木を育てて木製品として利用することで大気中の二酸化炭素の減少に大きな効果があります。数十年を経過して解体され一部は再利用され、一部はエネルギーとして利用され、化石

燃料の抑制効果も生まれます。

植樹によって、森が育ちますと森の土にも樹木の部分と同じくらいの炭素が固定化されます。1立方メートルあたり18キログラムくらい埋まっているそうです。これは地表に落ちた木の葉が徐々に分解されその有機物が粘土と混ざり合い黒い土が厚くなってきます。黒く見える部分が炭素分の多いところだそうです。100年、1,000年単位で考えますと炭素の蓄積量は凄い量になります。しかし木を植えた後の手入れを怠りますと木の生長に、したがい木が密集して光が入らず、下草も生えないので表土が流れることで上の豊かな有機物が流されて山の豊かな表土がなくなりやせた山になってしまいます。

その流れた有機物の豊富な表土は微生物がどんどん食べてさらに微生物が増える、窒素成分のたんぱく質が増えて最終的には水と二酸化炭素となって空気中に大量に放出されますので逆効果になることもありますので植樹したあとの手入れが非常に重要になって来ます。日本の森林の面積2500万ヘクタールの内1000万ヘクタールが人工林でその77%が民有林です。木材価格の低迷も一因といわれますが、手入れの不足で森林の本来姿を人為的に変えてしまったことで、地中に蓄積されるべき炭素が自然のあるべき姿をより早く大気中に放出されているそうです。

もちろん森林の働きは二酸化炭素の吸収、貯蔵のほかに、水資源の保全、酸素の供給、厳しい気象の緩和、国土の保全、魚類の生息環境の保全などまだまだ数多くの働きや効果があります。私たちの年代は生まれたときから、きれいな空気、水、豊かな緑の中で生活してきましたのであまり危機感を持っていませんでしたが、最近の異常気象、地球温暖化のニュースを耳にしますとあまりにも早くこのまま環境の悪化が続いていくとしたら、私達の子供や、孫の世代にはどのような生活環境が待ち受けているのか心配するところでもあります。

最近では温室効果ガスの排出抑制ということから、自動車や機械などは、第3次排ガス規制等がありまして温暖化ガスを出さない技術革新が進んでおりますが、今まで出てしまったものを吸収させることでは、植樹していくということが大切になってきます。しかしながら、植樹をして後の手入れ

までも考えますと単年度の予算や委員会事業で出来るようなことではありませんでした。

将来のことを考えますと子供たちに、自然の保護、環境保全の大切さ、森がだめになれば水と、空気もだめになるというようなことをアピールできるような図書があればロータリー文庫として贈ることの方が効果があるのではないかと考えまして、現在尾崎会員に相談しているところで御座います。

参考に、二酸化炭素が現在世界で一年間にどれくらい排出されるかといいますと2001年のデータですのでまだ増えていると思いますが、世界で約63億トンの排出量で、森林や海洋に吸収される量が31億トンですから、一年間に吸収量の倍くらいの量が大気中に増え続けています。その結果大気中の温室効果ガスの濃度は工業化以前の280ppmから370ppmに大幅に上昇しているとの事です。現在の生活様式に変更がない限り上昇の一方だそうです。自分自身、自然環境等には無関心だったので、調べてみますと樹木、森、環境に関することは道庁の水産林務部森林計画課のホームページに詳しく出ていますし、身近なところでは名寄の森林管理署にいろいろな参考になる無料の資料等が揃っています。

温暖化防止に向けた森づくり、木の利用等のイベントも多く開催されています。温暖化防止に関する記事や多くの取り組みが毎日のように報道されています。環境破壊の恐ろしいくらいの速さを知り、田舎に住んでいけば大丈夫だろうと、いままでの認識不足を反省しております。

最後にロータリーの手続き要覧に社会奉仕は、ロータリアンひとりひとりが、「超我の奉仕」を実証する機会である。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、ロータリークラブにとっても献身に値することであり社会的責務であると定義されています。

地域に住む人々の生活の質を高めるということではお金も年数もかかりますが、森づくりなどの年度をまたぐような活動もこれからは必要かと思いました。

ご清聴ありがとうございます